

大正12(1923)年

関東大震災発生

大火事によって
東京は
焦土と化した

『科学画報』編集長

はらだ みつお
原田 三夫

せめて写真を撮って
この惨状を記録
しとかないと

ここまで来ると
哀しさよりも
人の無力を感じるぜ

ウチも
焼けちまったし
東京中まっさらだ



日本は地震が
どこにでも
起こる国

日本がこの
地震の有り様を
知りたがるはずだ



9月発売の
『科学画報 大震災号』
11月発売の
『地震の科学』は

飛ぶように売れ
余震のあることに
版を重ねた



なぜ地震が
起こるのか
どう起こるのか



被害を受ける建物
火事を防ぐ方法：
今一番必要な情報を！



やはり皆が
情報を求めてる！
それに…

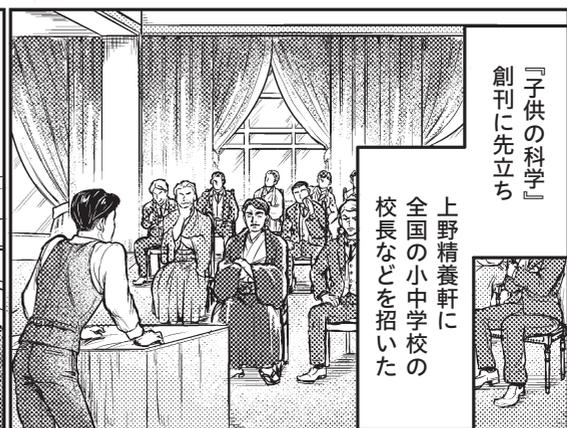
「子供にもわかる
科学雑誌」を望む
投書が続々と…

創るか！
「子供の科学」！



幾度壊れようと
科学知識さえあれば
何度でも建て直せる

今こそ子供たちに
科学を学んで
もらいたい



「子供の科学」
創刊に先立ち

上野精養軒に
全国の小中学校の
校長などを招いた



未曾有の大震災で
更地になった
帝都は

最新科学を用いて
より強く便利な街に
建て直されています



日本国家のために
赤字覚悟で
刊行します！

志ある方は
どうか援助を
お願いしたい！



安田徳太郎

小酒井不木

牧野富太郎

子供の科学

毎日質問や感想の投書が
山のように届き

牧野富太郎をはじめ
各界の研究者が寄稿する
人気雑誌に成長した



原田の熱意は
多くの人の心を動かし

大正13年9月
『子供の科学』
(通称・子科)が創刊

大正14年

東京放送局の
ラジオ放送開始

ラジオ受信機が輸入され
たが部品を集めて
自作する者も多く現れた



部品から
受信機作ると
ハマっちゃったぜ

こり性スぬえ

そうだ！「子料」で
ラジオの原理と
受信機の作り方の
特集しよう！

聞こえろ

飛ぶように
売れるぜ！

ラジオ新品は
高いからなア！

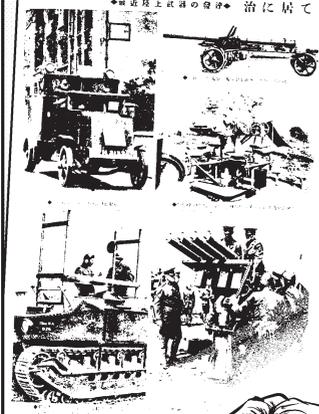
部品だけ買って
鉱石ラジオを作れば
外にも持ち出せる



わけなく
野に山に携帯できる
てきます
作って御
覧なさい

無線きとり装置
石井 富好
原田 三夫

大正14年 10月24日 無線きとり装置



編集長を離れ
顧問作家になった原田

西欧でも
戦争が始まって
世界中戦争だ

需要があるから
仕方ねーが兵器の
記事だらけだな

原田の危惧通り
昭和12(1937)年
日中戦争が
始まった

米国と戦争など
馬鹿なことを
始めたものだ

国力も資源も
科学力も
到底敵わない



第二次世界大戦の
戦火は枢軸国だった
日本をも巻き込み

昭和16年12月
日本は
太平洋戦争に突入する

B-29

長距離飛行を可能とする
B29をアメリカは
開発していた

完成すれば
帝国本土に直接
爆弾を落とせる

日本の木造建築を
焼き尽くす
焼夷弾はもちろん

もっと強力な…
ドイツの
ハーン博士が
発見した

核分裂爆弾
だって…

科学ジャーナリストの
原田には戦前から
最新の科学技術の
情報が入っていた

当初は連戦連勝の
日本軍であったが

米国の物量に負け
本土への空襲も開始



ギリ貧の
日本軍部は
米英を敵視し

『子科』にも
厳しい検閲が
入るようになった

世界の資源状況と
南方の石油情報…



検閲を通すための
戦意高揚の提灯記事を
書くたびに

気が減入って
しまってます…



防毒マスクに
焼夷弾への対処法
野菜の育て方…

今の子供たちに
必要な科学記事は
いいんですけど



軍部に媚びてまで
『子科』を発刊する
べきなのか…と

…お前らの
言うことはわかる





関東大震災の
ときのように…
いや日本中に！

科学の力が
必要な子供たちが
いるんだよ！



大人の身勝手で
子供たちに重責を
背負わせちゃうんだ

責を感じるなら
エゴなぞ捨てて
ペンを握りやがれ！



昭和18年11月29日夜半
社屋の周囲がほぼ全焼し
原田は札幌に疎開

東京に残った編集部に
よって『子科』の
出版は続けられ

印刷所が焼かれた
昭和19年まで
発行は続いた

地球鉛筆
特許第一号—六九六號
電氣 商標 登録 商標
東京 印刷 所 東京 印刷 所

中央美術
社 出版



おー…さらなる
戦意高揚かと
思ったら降伏かい



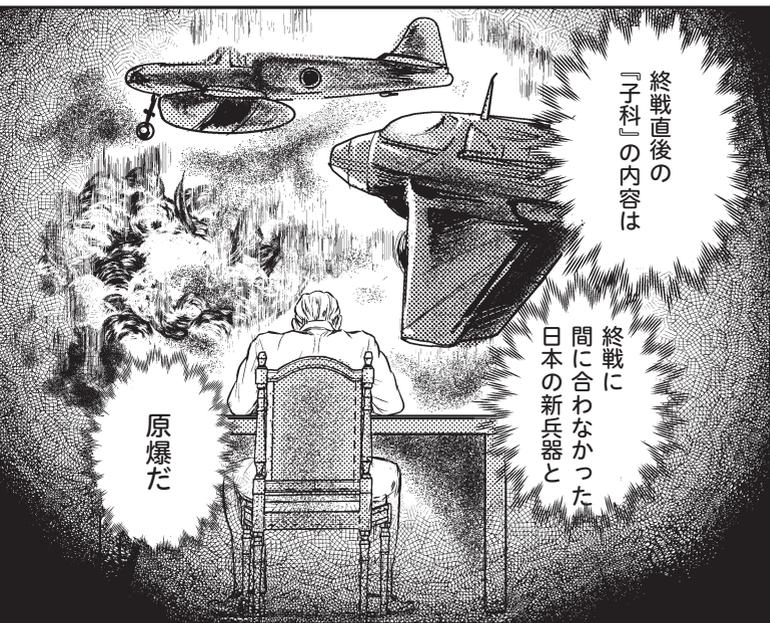
昭和20年8月15日

玉音放送



編集部は終戦後
駆けずり回って
印刷所を探し

原子爆弾2個も
落とされて
ようやく…
むなしい結末だぜ



原爆だ

終戦直後の
『子科』の内容は

終戦に
間に合わなかった
日本の新兵器と



中断した『子科』を
再開する算段をつけた



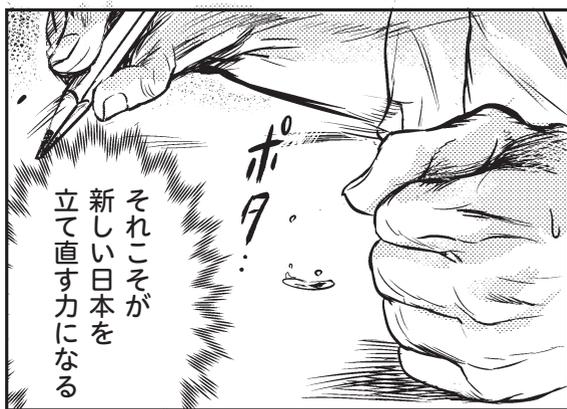
なぜ日本が
敗れたのかを
科学的に検証し

子供たちに
大人たちの愚かさを
知らしめねば



子供たちよ
科学的に物事を
見てほしい

そうすれば
真実を見逃す
ことはない



それこそが
新しい日本を
立て直す力になる



原子爆弾は
どういう
仕組みなのか

どうやって
開発されたのか

日本と米国の
兵器の差を
比べることで



遅れても
毎号出す！
一緒に復興しよう

『子供の科学』が
復興のための良き友と
なることを願う

昭和21年1月号で
復刊して以来
同誌は毎号発刊され

令和6（2024）年で
100歳を迎える

子供の科学
Children's Science

100周年記念特大号
子供

